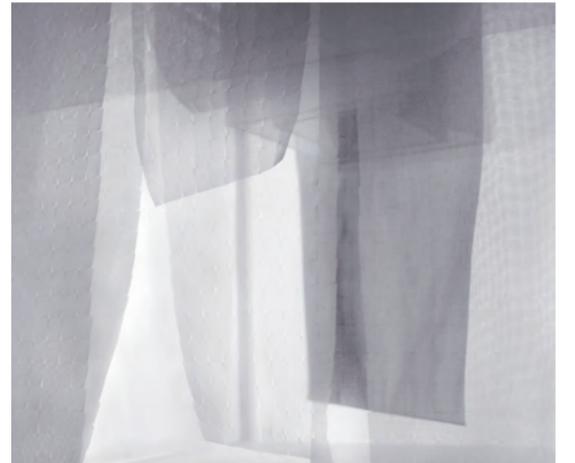


揺らめく柔らかな表層によって、茶室の外形は1つに定まることはない。



いくつものファブリックが重なり合うことで、様々な透明度が生まれる。

かながわ建築祭2017 茶室デザインコンペティション

## 湯気 の 茶 室

茶室を白い湯気のような柔らかな表層で包む。湯気は、茶室で起こる微細な風に合わせて、静かに浮遊する。

茶人は、湯気を介して現実世界をうっすらとを感じる。揺らめく湯気によって、向こう側はさらに曖昧となる。その中で、茶と向き合い、侘び寂びの世界へ誘う。

湯気の花室は、「奥」を生むことで、贅沢な時間を与える。

### コンセプト

現実世界

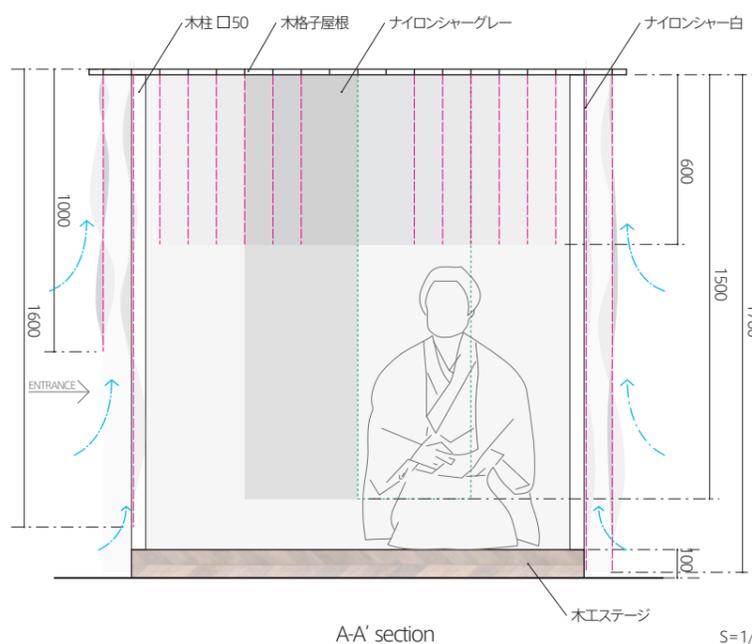
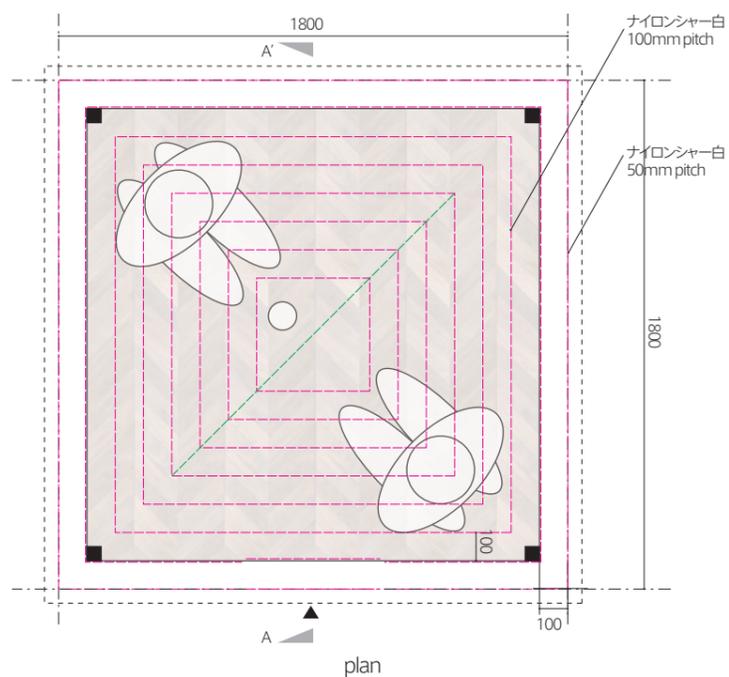


茶の世界



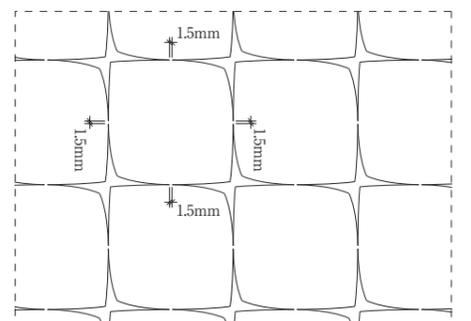
現実世界をピクセル化する。それは湯気がかすむ視界のようであり、現実世界と茶の世界との間に深い奥行きをもたらす。客人を侘び寂びの世界へ導くアプローチとなる。

### 構成

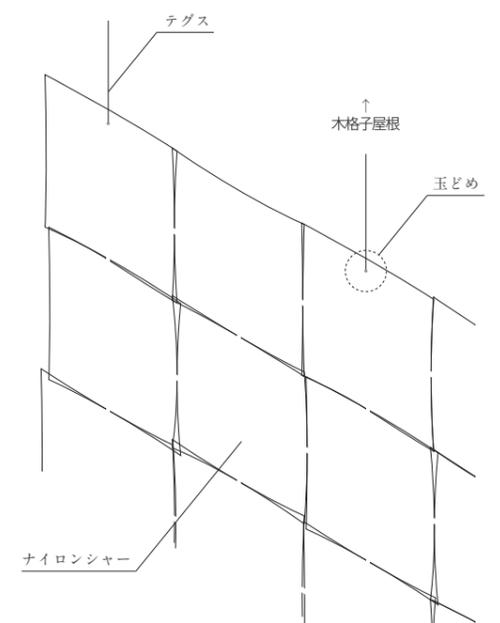


十字の切れ込みを入れることでナイロンシャワーを、表層は 50×50mm、茶室内部は 100×100mm のピクセルに細分化する。これは、外部からの風をしなやかに受け止め、静かに内部空間へ伝えるための寸法である。これらを木格子屋根から吊るし、層をつくる。

### 詳細



ピクセルの4辺の中点(長さ 1.5mm)を残しながら、各辺に切り込みを入れていく。



木格子屋根からテグスで吊るし、軽やかに浮遊させる。